



起業3年目までの
必要な知識が
10時間で学べる
オウンドビジネス大百科

オウンドビジネスの地図
～ 個人投資家編 ～

Part 2



玉井 : じゃあ、まず、初心者の人向けに、「投資ってどんな種類あるの？」っていうような初歩的なところからね、順に概要掴めるように説明していこうかなと思うんやけど。えとー、ざっくり種類って言うと、まず最初に、扱うものが金融商品か不動産かにね、分かれるかなと思うけど。で、ここでは主に金融商品の話をしていくと。

伊藤 : はいはい。

玉井 : それは、不動産はまた競技が違うというか。その投資の世界の王道のルートとしてはさ、まず流動性の高い投資で、流動性の高い金融商品ね、株とか為替とか。そこで増やしたお金を流動性の低い不動産に変えていく、っていう1つの正解があるから、つまり初心者向けではないから。

伊藤 : そうっすね。つまり、これってハイリスクハイリターンから、ローリスクローリターンに変えていくってことですけど。それは、自分の動かせるお金とか、状況に応じた適切な投資の仕方がありますよねっていう考え方から来ていて、

ちなみに不動産投資に詳しい人が言ってましたけど、例えばキャッシュで2億あったら、今だったら食いっぱぐれないよねみたいなことはゆってて。2億あったら、不動産運

用で年間2, 3000万くらいは取れるので、生活費はそれだけで十分みたいな。

玉井 : あーはいはい、まあ今伊藤ちゃんが言ったことってのは、不動産担保にしたら銀行から金借りれるから、そしたら自分が持ってる資金以上の不動産ゲットできるから、そんなくらいになりますよね、ってことやねんけど。

伊藤 : そうですね。

玉井 : だから、話逸れるけど、よく言われるやつでさ。「毎月100万が100ヶ月に分けてもらえるっていうのと、一気に1億もらえるのどっちが良い？」みたいな質問あるやん(笑) 2chまとめとかで(笑)

伊藤 : ありますね。

玉井 : あれで毎月100万がいいですーって言うてる人結構おるけど、disってまうけどさ、やばいやん。あれほんとは議論の余地ないから。

伊藤 : ないですね。

玉井 : 100%一気にもらえるほうが良くて。まあ、それは今どうでもいいんやけど。でも、そんな人のためにもね、こうやって音声とってるんですけども、何の話やっけ、不動産か。不動産は置いときますと。

伊藤　：そうですね。僕も、初心者にはおすすりめしないっすね。不動産はキャッシュで買わないと微妙ですし、サラリーマンの人が無理してってゆったら、あれですけど、まあ、今の実力以上の物件を買って運用するってなるとかなりリスクーというか、不動産投資も勝ち負けの世界なんで、それじゃそもそも勝てないなっているのはありますよね。

玉井　：そうそう。相当なりテラシーないと不動産は勝てないと思うし、まあだからそうすると、金融商品1つに絞られるわけやけど。一応、ちゃんと金融商品というものを広く理解してもらうためにも一つ一つ言っていくと、まず、金融商品って聞いて最初に頭に思い浮かぶのが「投資信託」とか、投信ね。が一般的やと思うんやけど、これは省きますと。

伊藤　：そうですね。これはどっちかという自分で、個人で力つけていくぜっていうより、誰かに任せて資産運用してもらってという話ですもんね。

玉井　：そうそう。ただ、投信も良いものはあるし、貯金してるくらいだったら絶対この投信に入れたほうがいいとかってのもあるけど。だから、サラリーマンでなかなか時間が取れないとか、本業が忙しい人とかだったら、イデコとかNISAとかね、っていう投信があるんですけど、それをやるのとかはめっちゃアリやと思うけど。

伊藤　：はいはい。

玉井　：今回は、そっちじゃなくて、1人でゼロから個人投資家としての実力をつけていくっていうプロセス、選択肢を話したいので、ってことはさ。

「そんな人ってのは、時間があれば一般の投資信託に預けるよりも、自分でトレードしたほうがはるかに上手にお金増やせる人たちであって、そんな世界」のことであって。もちろん、ある程度資産築いてからは国債も買うし投信にもお金入れるし。てか、まじの大金持ちはヘッジファンドにお金入れてるし、一口何億とかで。で、ほんまにそういう人でしか知らない秘匿な情報をもってるわけやん、100万や200万じゃ買えないようなトップシークレットな情報を。

伊藤　：大分おもしろい世界ですよ(笑)

玉井　：そう、もう興奮するやん。本物の情報強者やん。

伊藤　：そうっすね(笑)

玉井　：そう。だから、独力でお金を稼げるようになるとか、経済的に豊かになるとか、そのためのトレーダー、ディーラーの世界ってのがテーマなので。だから、もっと短期で時間軸短くて、リスクとリターンが大きいもの。

伊藤　：なるほど。ワクワクする系のやつですね。

玉井　：そうそう。投資家として最初自分の力を高めていきながら同時にかなりのスピードでお金を増やしていく、チャレンジングなやつを扱うと。あ、だから保険とかも違うし、ベンチャー投資とかも勿論別ね。

伊藤　：そうですね

玉井　：まあ、ほんとは個人投資家って投機も投資もどっちもやるんやけど、今言ってるようなルートとしては順番的には投機が先やから、それを目標にしたというか、究極言ったら、それをゴールにした世界というか。イメージとしては、投機っていうのは「買って、売って、逃げる」っていうイメージで、投資っていうのは「買って、買ったことを忘れて放置する」っていうイメージ、そういう違いやってなんとなくイメージしてもらえれば良くて。

で、じゃあ今の踏まえた上で、個人のトレーダーがね、投機よりのトレーダーが、あのパソコンとか机の上に何画面も置いて、難しいグラフみたいな、チャート見ながらマウスでカチャカチャやってるー！みたいな、スマホでポチポチやってるーみたいな、そういう人が何をやってるんかっていうと。例えば金融商品で分けるんやったら、ドル円とかユーロドルとかさ、のFXとか外国為替がまず一つあって。んで、個別株ね、任天堂がソニーがアップルがFacebookがっていう、そういう企業の株。んで、そういう銘柄集めた、日経225とかSP500とかっていう、インデックスって呼ばれるものもあって。あ、用語は説明せず

に普通に使うんで、話進めるために、なので調べてもらうとして。あとはビットコインとかさ、リップルとか、仮想通貨はもう一般的やし。

伊藤　：そうですね。

玉井　：あとは、小麦とか原油とかのコモディティっていうのもあって。コモディティってのは商品って意味ね、だからぼくは原油のトレードで稼いでますみたいな人もおっ
て。

伊藤　：そうですね。えーだから、海外為替、個人株、インデックス、仮想通貨、コモディティの5つですね。

玉井　：そう。あとは一、もうどの株とかさ、どの通貨ペアとかさ、ユーロとドルとか、豪ドルと円なのとかさ、そこまでいくともう星の数ほどあるから。まあ、ざっくりそんなかんじなんやーでOKで。だって、その日本の投資信託だけでも何千とかあるわけで、株もさ、アメリカ株、とか海外も入れたらえらい数になるから。ざっくり5つのカテゴリーで理解してもらってたら良くて。で、じゃあ実際のタイプっていうか、トレーダーによって主戦場とするところがみんな違うんやけど、すげえ表面的に分けたら、例えば、個別株を主にやってますとか、まあ株式投資よね、あとは日経と仮想通貨をメインで触ってますーっていう人もおるし、アメリカ株とかSP500とかダウやってるとか、

スキャルピングとかやったらFXって言ってもドル円がむっちゃ強いとか、私はポンドがメインですとかさ。そんなかんじで個々に、自分の得意とするものがあるって、例えば、天然ガスとかパラジウムにすげえ詳しい、とかって人もおるし。

伊藤　：(笑)

玉井　：そんなかんじで、みんな自分の得意とするものを持ってのイメージ。もちろん、それは自分で見つけていくんやけど。

伊藤　：そうですね。

玉井　：で、その上で更に自分の投資スタイルってのもちゃんと確立してやってる。だから話それるけど、独自の投資スタイルを、実践通してね、自分で確立していく、それを貫き通す。ってのはめっちゃ大事なことで、で、それは「おれはこれ！じゃあ私はあれ！」みたいなコンビニでジュース選ぶみたいなもんじゃなくて、もう地獄のようなトライアンドエラーの果てにあるもんやから。

伊藤　：そうですね。だから、めっちゃお金減ったり、お金めっちゃ増えたと思ったら次はもっと減ったり、みたいなことを繰り返しながらっていうことですよ。

玉井　：そうそう。だいたい凄腕の人は過去に何百万溶かした何千万溶かしたっていう経験をしてるからね、最初の

頃にね。だから、それは金持ってたなら毎日何百万って上下するよーって当たり前やけどさ、最初積み重ねてる頃に一気に80%資産溶けたみたいなの。

伊藤　：うわあ。

玉井　：で、それってターニングポイントでさ、そこでほとんどの人がそうやけど、メンブレしてやめるのか、それともそこで諦めずに続けるのかっていうところも1つの差やと思うけど。

伊藤　：そうですね。ほとんどの人はそこでやめますよね。コツコツ積み重ねてたのを一気にドカンって持っていかれたら普通にむちゃむちゃ萎えるじゃないですか(笑)

玉井　：そうそう。だから、初心者の方はちょっと分からんかもしれんけど、「デイトレです！」とか当たり前やけどそんな投資スタイルじゃないから。「自分にあった投資スタイルで始めてみましょう！」とか言う人とかいるけど、そういうことじゃないからさ、まあそれは話すと長なるから。でも、ほんまに誰か1人のトレードを真似してとかさ、高い金払ってさ「最強FXツール」とかさ、「それでこれだけ稼いでいます！」って言う人ってネットで調べたらいっぱいブログとかSNSとか出てくるけど。そういう情報は最初は意識して排除していかんと、「バイナリーで稼げるんやー！」「学校の勉強みたいに教えてもらったとおり

にやったら結果出るんやー」って勘違いしちゃうから、
で、それがめっちゃ勿体無いやん。

伊藤　：それは、かなり勿体無いというか、そもそもですけど情報の受け取り方も間違っってというか。

玉井　：あーまあそうやなー。でも、まあ姿勢の問題もあるけどやっぱ知らないことによるところがおっきいと思っ
てて。だから、あくまで売買の判断は自分でするものやし、自分の投資スタイルは自分で確立するものやし、っ
ていう前提は非常に大事ですってということね。

伊藤　：なるほど。

玉井　：そう。で、じゃあなんやっけ、あ、色んな金融商品がありますよと。ドル円ーとか、日経ーとか、原油ーとか、とうもろこしーとか。そう、で、「え、とうもろこし？」とか思うかもしれんけど、当たり前やけど、ほんまにとうもろこしを売り買いしてるんじゃないから、その辺は「デリバティブ」って言葉を理解しないといけないんやけど、まあむっちゃ簡単に言うと。例えば、世界のとうもろこしの需要と供給があるわけでき、今年はいっぱい収穫できたーとか、不作だったーとか、今年はすごい買う人多いーとかさ。だから、常に値段が上下してるわけよね、リアルタイムで。

伊藤　：そうですね

玉井　：で、それをちょっと雑に言うけど、予想するわけよ。今年はどうもろこしが穫れる地域の天候がいいぞー！ってなったら「うわーじゃあ価格は下がるかなー」とか。供給増えるから。新興国の経済が今度好調やぞー！ってなったら「じゃあ上がるかなー」とか、需要増えるからね、とか。で、世界の投資家たちみんながそれを予想してるわけよ、もちろんどうもろこし以外の色んなものも。で、それは金融商品やから、例えばどうもろこしって言っても、商品先物って言って、えーっと雑に言ったら、実際のどうもろこしじゃないわけ。

伊藤　：商品先物取引って呼ばれるものですね。

玉井　：そうそう。デリバティブの一種やねんけど。これって、金融派生商品って言って、実際のどうもろこしを基準にはしているけど、金融商品としてのどうもろこしっていう、ちょっと難しいねんけど。どうもろこしとは別の、金融の世界のどうもろこしっていう商品であって、ラベルみたいなもんであって。だから、その値段は、その金融の世界の市場で決まるわけやん。だって、実際の経済の市場、実際の商品、モノを考えたらわかるけどさ、その値段ってというのは商品市場があって、そこで取引されて、値段が決まるやん。

伊藤　：需要・供給曲線で決まりますからね。

玉井　：そうそう。だから、その市場の参加者の人たちの売りたいっていう量と買いたいっていう量の需要と供給で

決まる。つまり、値段ってというのはその商品が置かれてる市場で決まるのと同じで。金融市場もおんなじで、金融市場に置かれているとうもろこしっていう商品の値段も、同じように金融市場の参加者の売りたい人買いたい人の需要と供給で決まる、っていうややこしいけど。

伊藤　：ちょっとややこしいですね(笑)

玉井　：まあ、言ったら金融商品なんて何でもありやねん。それで稼ぎたい人がおるから、それをね、安く買って高く売って稼ぎたい投資家もおれば、そんなやつらを集めてその手数料で稼ぎたいブローカーもあれば、新しい金融商品を作って儲けたい銀行とか証券会社もあれば、人から集めた金運用して儲けたいファンドもあれば。っていう雑に言ったら、みんなで金で殴り合いしてるわけで。まあFPSみたいなもんで、まじで荒野行動と一緒にやから(笑)

伊藤　：札束の殴りあいっすね(笑)

玉井　：そうそう。金で格闘技してるみたいな、めちゃめちゃ金が動くバージョンの荒野行動。

伊藤　：なんか楽しそうですね(笑)

玉井　：そうそう。別に素直に楽しそうやん(笑) 死んだら自分の金減るしそこでキルすれば自分の金増えるっていう荒野行動、やと思えば(笑)

伊藤　：まあまあまあ。

玉井　：だから、たまたまハマったのがゲームじゃなくてFXだったからむっちゃ金持ちになりましたって人っていっぱいおると思うし。まあそれはええけど(笑)で、あとはファンダメンタルとテクニカルって聞いたことある人もおると思うけど。概要だけ簡単に言うと、ファンダメンタルっていうのは、さっき言ったような、経済が好調やぞーみたいな、「発表された経済指標が良かったぞー」とか、「FRBが、アメリカの中央銀行が今度利下げするらしいぞー」とか、「どこどこの国の選挙でどの党が議席増やしたぞー」とか、そういう政治とか経済のニュースとかを元に値動き予想するのがファンダメンタルで、まあ、チャートを、値動きのグラフを形作っていく上での基礎的な条件って意味やねんけど、それがファンダメンタル分析っていうやつ。テクニカルってのは、グラフがあって、ロウソク足とか聞いたことあるかもしれんけど市場参加者は全員あのチャートを見てトレードしてるから。

伊藤　：そうですね。

玉井　：だから、そのチャートは市場参加者の集団心理を表してるわけで。だから、チャート分析をする。チャートの中にある人の、集団の、行動パターンみたいなものを読み解くというか、周期とかトレンドみたいなものを読み取って、例えばそのチャートに自分で補助線引いたりして、「このラインまで落ちてきたら買いで入ろう」とか、

「でももしブレイクしたら、押し目つけてからエントリーしよー」とか、ちょっと分からんかもしれんけど。

伊藤　：ちょっと難しいですね(笑)

玉井　：まあ、そういうパターンを自分で見つけて、売り買いするのがテクニカル。あとはアノマリーってのもあるけど、「Sell in May」とかね、まあこれはいいや。

伊藤　：うんうん。

玉井　：基本的には、ファンダメンタルとテクニカルっていう2つの視点があって。それも人によってどっちをどれだけ重要視するかとか得意とするかってのが違うっていう。だから、荒野行動で言ったら、マシンガン使うんかショットガン使うんかみたいな、ちょっとたとえ違うけどー。まあ荒野行動おれあんまり知らんからね、まあええねんけど。

伊藤　：(笑)